



学校だより

清流

立山町立立山中央小学校

令和3年5月

「よいまね」を子供たちに！ ～すてきな子供たちに感動！～

毎朝、登校してすぐにあいさつ運動に参加する子、また、花壇の世話をする子や校舎内で汚れている場所を清掃する子、そして、1年生が早く学校に慣れるようにとふれあったり、お世話をしたりする子等、自分ができる活動を自主的に考え、それを継続しているすてきな子供たちがたくさんいます。朝から心温まる光景が見られる本校の自慢の一つです。

さて、先日、校舎内を回っていたときの事です。下を向きながら歩いている子がいたので、どうかしたのかと注意深く見ていると、廊下に落ちていたゴミを拾っていました。何人もの子供、そして、大人がその廊下を通っているのですが、誰もごみに気付かないのか、気付いていても誰かが拾ってくれるかと思っているのか……。しかし、その子は迷うことなくごみを拾い、何事もなかったかのように歩いていきました。

別の日にも玄関のごみを拾っているところを見かけ、「ありがとう」と声を掛けると少し照れくさそうに、小さく会釈し笑顔で教室の方へ行きました。誰かに頼まれたわけではなく、係としての仕事でもなく、自分からこのような行動をとることに感心させられました。そして、心が温かくなりました。また、登校時や休み時間に廊下ですれ違うとき、私の顔をしっかりと見て笑顔で挨拶してくれる1年生の子がいます。この子は笑顔と共に会釈も自然にできる子供です。挨拶はするけれど、相手の顔をしっかりと見て会釈までする子供はあまり見かけないので、とても驚きました。



子供は周りにいる大人や仲間の行動をまねながら、生活していくために必要なことを学んでいます。みんなが通る廊下にごみが落ちていたら拾う子供も、相手の顔を見て挨拶できる子供も、これまでの生活の中で誰かのまねをし、学んできたことが当たり前のように行動に表れていたのではないかと思います。

本校の1階廊下に「まねをせよ よいまねをせよ そのうちに自分のものとなりてくるなり」という道歌が掲げられています。かつて本校で担任をしていた頃、その道歌の意味について子供たちと話し合ったことがあります。よい行いをまねることの大切さ、そして、よいまねをされるような自分になりたいという願いを口々にしていたように思います。

ところで、本校では1年生から6年生の子供が縦割り班をつくり、清掃や交流活動を通して心のふれあいを行っています。高学年になると、自主的に低学年の世話や学校の作業をしてくれています。この背景には、これまで集団登校や縦割り班活動、学校行事等で一生懸命に活動している高学年の姿を見ていたからだと思います。小さい頃からよい行いを見て、まねることが、この立山中央小学校のよい伝統となっています。このよき伝統を次へつないでいくためにも、我々大人も、学校において家庭において、子供たちの「よき手本」「まねてもらえるような」行動をとっていきけるように心掛けていきたいものです。

